

(別紙5)

補助事業概要の広報資料

補助事業番号： 23-1-017

補助事業名： 平成23年度 環境にやさしい自転車社会作りのための啓発普及補助事業

補助事業者名： 財団法人 日本自転車普及協会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

自転車を利用することにより、豊かな自然と快適な生活環境を確保し、健康で明るい社会づくりのため自転車利用の環境促進を図り、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

ア. 自転車月間推進事業

平成23年度自転車月間推進事業の報告と決算報告の審議及び平成24年度自転車月間事業の実施計画と予算等を審議するため、自転車月間総会を開催した。

また、「自転車月間(自転車の日/5月5日)」及び月間趣旨により一層の普及啓発を図るため、自転車月間「自転車の日」記念行事『サイクルドリームフェスタ2012』を開催した。



イ. 自転車に関する総合情報提供事業

自転車の情報発信基地である「自転車文化センター情報室(科学技術館内2階I室)」を、平成23年4月1日から平成24年3月31日まで、本年度より制定された科学技術館休館日(不定期の水曜日・年末年始)を除き、毎日運営した。

自転車文化センター情報室入場者数 44,169名



また情報室内に来館者自らが当センター所蔵の図書・現物・映像等の資料を検索することができる「タッチメディアステーション資料情報検索システム構築」し、来館者の利便性向上を図った。



ウ. 自転車に関する企画催事

自転車の持つ魅力と暮らしに役立つ利便性を広く紹介するために、企画催事「自転車が人にできること ～ここまでできる自転車の魅力～」を下記のとおり開催した。

名 称：企画催事「自転車が人にできること ～ここまでできる自転車の魅力～」

期 間：平成 23 年 10 月 1 日(土)～2 日(日) (2 日間)

場 所：科学技術館 1 階 1・2・3・4 号催物場

内 容：(1)「人に役立つ」事をテーマとしたハンドメイドや特別製作車の展示と試乗
 (2)「運搬用自転車の活用事例」展示コーナー
 (3)「東日本大震災被災地サイクリストからの声」展示コーナー
 (4)「非常時に役立つ自転車と自転車用品」展示コーナー
 (5)自転車文化センター所蔵の「物を運ぶ自転車」の歴史展示
 ※来場者：計 1,011 人 (10 月 1 日(土)357 人/10 月 2 日(日)654 人)



エ. 自転車に関する特別展示

自転車文化センター情報室において、当センターの資料を活用して来館者に自転車の奥深い魅力や多様な活用法を紹介するため、3 ヶ月毎に 4 テーマを更新する特別展示を行った。

(1) 名 称：「ミシヨー型自転車誕生 150 周年」展

期 間：平成 23 年 4 月 1 日～7 月 12 日

入場者数：11,572 名

- (2) 名 称 : 「子どものときに遊んでいた自転車・三輪車」展
 期 間 : 平成 23 年 7 月 15 日～10 月 10 日
 入場者数 : 11, 116 名
- (3) 名 称 : 「自転車で旅に出よう」展
 期 間 : 平成 23 年 10 月 16 日～平成 24 年 1 月 10 日
 入場者数 : 11, 545 名
- (4) 名 称 : 「アジア・アフリカの自転車」展
 期 間 : 平成 24 年 1 月 14 日～4 月 8 日
 入場者数 : 10, 576 名 (※1 月 14 日～3 月 31 日迄)



オ. 自転車の科学教室

平成 23 年度自転車普及事業自転車教室として「夏休み親子で学ぶ自転車の科学教室」を以下の通り開催した。

- 名 称 : 「夏休み親子で学ぶ自転車の科学教室 チェンジギヤを科学する」
 期 間 : 平成 23 年 8 月 7 日、9 日、11 日、14 日 (全 4 日間) 1 日 2 回実施
 場 所 : 北ノ丸サイクル内
 内 容 : ①チェンジギヤの働きとしくみを学ぼう
 ②むかしの形の自転車と今の形の自転車の 2 種類の模型を組み立ててみよう
 定 員 : 1 回につき親子 10 組

参加者 : 65 組 176 名 (各日とも 1 日 2 回/定員親子 10 組)

なお、夏休み時期以外の「親子で学ぶ自転車の科学教室」を下記のとおり開催した。

- 平成 23 年 5 月 5 日「自転車の歴史とメカニズム」教室開催 (※サイクルドリームフェスタ 2011 内)
 5 月 22 日「どうして前輪の大きな昔の自転車は乗るのが難しいのかな？」
 6 月 19 日「タイヤの安全確認・パンク修理にチャレンジしてみよう！」
 7 月 18 日「自転車のライトはどのくらい明るくなるのだろうか？」
 9 月 18 日「自転車の素材 アルミニウムの特徴を調べてみよう！」
 10 月 9 日「慣性の法則とジャイロ効果の働きを考える」
 11 月 20 日「前ホークのオフセット効果を体験してみよう！」
 12 月 18 日「ギヤを変えると何が起こるのか？」

平成 24 年 1 月 22 日「倒れないためのバランスの取り方を再確認してみよう！」
2 月 12 日「倒れないためのバランスの取り方を再確認してみよう！」



カ. 自転車の安全利用教室

自転車文化センターで実施している「親子で学ぶ自転車の科学教室」ならびに情報室に来館する幼児・児童等を対象として、絵解きと写真を使ってわかりやすく自転車の交通安全ルールと正しい乗り方を啓発するため、『わかるかな？ みんなで覚えよう 正しい自転車のルール(小学生用)』を制作し、配布した。



キ. 自転車常設企画展示出展

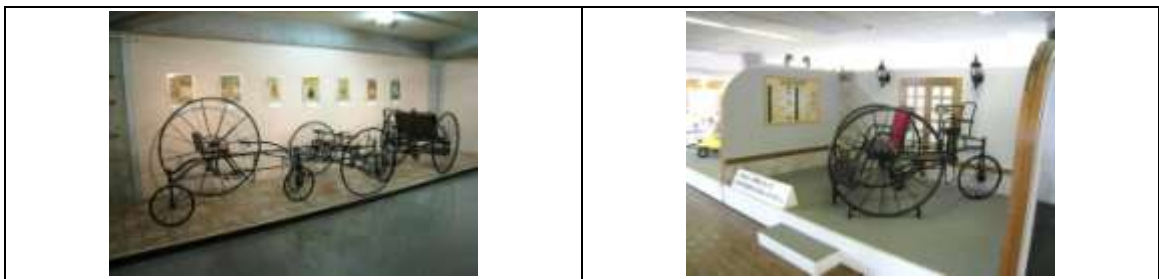
自転車文化センターの外部広報展示として日本サイクルスポーツセンター内に展示した。

場 所：日本サイクルスポーツセンター(静岡県伊豆市大野 1826 番地)

展示物種類：自転車文化センター各施設紹介パネル展示、自転車及び関連物品展示等

期 間：平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

来場者：24,835 名



ク. [自転車利用環境研究レポート](#)

自転車文化の継承と普及、ならびに現在・未来における“人と自転車・社会と自転車”との関わりを考える提案のための調査研究として、当センターの谷田貝一男学芸員と村

山吾郎学芸員が下記の各6テーマ／合計12テーマのレポートを作成し、調査研究報告書を全国都道府県立図書館や全国都道府県交通安全協会等に配布すると共に、下記のとおり当センターホームページにおいて公表した。

[参考：平成23年度事業 他誌掲載論文一覧](#)

 <p>交通史研究第77号 「大正期自転車卸売業界」／谷田貝一男</p>	 <p>東京くらしねっと No. 180 「自転車で楽しい外出を！」／村山吾郎</p>
 <p>ヒストリア茅ヶ崎第4号 「石上巡査日記から判明した日本最古の自転車ロードレース」／谷田貝一男</p>	

ケ. 高齢者・障害者向け自転車普及啓発事業各専門分野の有識者等で構成した「高齢者・障害者向け自転車普及検討委員会」を設置し、全3回検討委員会を開催し、課題・問題点の整理、抽出を行った。

都内2カ所（テクノプラザかつしか、時事通信ホール）において、高齢者障害者向け自転車の展示を行い、一般の方に向けた自転車のPRを行った。

板橋区立グリーンホールにおいて、展示試乗会を開催した。モニターの方に実際に試乗いただき、アンケート調査を行った。



コ. 健康増進のための自転車利用啓発事業

心身の健康維持・改善のため一般健康成人およびサイクリング愛好家を被験者として、種々の強度、時間及び頻度の組合せによる自転車走行トレーニングを実施し、その前後に種々の生理・科学的な測定を行った。

このデータを基に、トレーニング効果を評価し、これまで2年間調査してきた結果と併せて、自転車による健康づくりのための総合的な運動プログラムを作成した。



サ. 自転車乗用に関する市民権宣言ポタリング

自転車に乗り始めた方々を対象とした走行会の場を提供し、自転車に乗ることの快適性や利便性を伝えるとともに、自転車の乗り方及び、自転車市民権宣言に則したルール・マナーを啓発し、自転車の魅力を知っていただくために「春を先取りポタリング」と題し、2回のポタリングを実施した。



シ. バイコロジー地方組織開催

「自転車市民権」や「バイコロジー運動」の推進を図るため、バイコロジーをすすめる会地方組織とともに、事業を実施した他、バイコロジー地方組織の統一活動として交通ルールの遵守と自転車乗用マナーの向上を訴えるキャンペーン活動を春・秋の全国交通安全運動期間中および5月の自転車月間にて実施し、バイコロジーの全国的な普及啓発を図った。

また、キャンペーンにおいて配布する啓発チラシ（反射シール付）を作成し、バイコロジー地方組織に配布した。



ス. シンポジウム開催

バイコロジー地方組織の活性化や地方から全国への発出を図るため、和歌山県紀の川市において「バイコロジーシンポジウム」を開催した。会場内において、自転車市民権宣言署名活動及び自転車環境パネルの展示出展など実施した。



セ. セミナー開催

平成22年度に引き続き、新しい自転車利用の社会的認知を図るとともに、高付加価値自転車の普及等の啓発活動を実施し「自転車市民権」の確立を目指すため、自転車と環境・健康問題、あるいは都市交通における自転車の役割や走行空間など、様々な問題を一般の方々と共に考える場として、自転車セミナーを計5回開催した。



ソ. バイコロジー指導者養成セミナー

自転車を安心して乗ることができる環境づくりや今後の自転車のあり方を検討し、自転車市民権運動の活発化を図るため、バイコロジー地方組織の地域ごとに講師を招き、バイコロジー運動のリーダー育成を目的としたセミナーを3地区において、計3回開催した。



タ. パネルディスカッション

自転車を安全かつ快適に利用できる環境作りを目指す活動として、利用者自らが守るべき原則を定め、自転車の市民権を確立するために何が必要かなど、有識者を招いた「パネルディスカッション＝自転車市民権宣言大討論会」を日本自転車会館イベントホール（東京都港区）において開催した。

会場ではパネリストによる活発な意見交換が行われたほか、「自転車市民権宣言署名セレモニー」を行い、集まった自転車市民権宣言署名を自転車活用推進議員連盟に提出した。



2. 予想される事業実施効果

ア. 自転車月間推進事業

自転車月間事業を円滑に推進することにより、自転車月間の趣旨が広く一般に浸透・定着していくことが予想され、「自転車の日」記念事業を通じて、国民における自転車の安全利用意識の向上が期待できる。

イ. 自転車に関する総合情報提供事業

自転車と歩行者の間における交通事故の増加や、東日本大震災以降、より一層自転車通勤や自転車スポーツに実際にとり組む方々が増えてきた社会的な背景の中で、当センターの情報提供と展示教育活動に対するニーズがより一層高まることが予想される。

ウ. 自転車に関する企画催事

今回のような特徴のある使い方をする自転車の場合にはとりわけ、作り手が来場者や一般消費者に直接製品を説明して試乗してもらって、製品の良し悪しを体験して頂くことが、来場者にとっても作り手にとっても大変貴重な機会であり、また自転車に関する総合情報施設としての当センターが、中立的な立場でできるかぎり多くのメーカーに参加して頂いて他社製品と自由に比較検討できる場を、広く一般市民に提供することが求められると予想される。

エ. 自転車に関する特別展示

自転車に関する総合情報提供施設として、博物館的な社会教育機関の活動として、当センターが収集・保管してきた自転車現物等の資料の研究成果を、テーマを設けて来場者に提供し、自転車に関する社会的な関心を高めて頂くことにより、自転車の文化的側面に関する関心が高まることが予想される。

オ. 自転車の科学教室

来館する幼児・児童・生徒に対して直接的に教える機会としての教室を開催することにより、子供たちと親御さんに直接的に教育プログラムを提供し、その反響と手応えを感じられるとても有意義な機会であり、こうした活動に対するニーズを強く感じたことから、今後も教室実施を求められることが予想される。

カ. 自転車の安全利用教室

子供たちがその成長の過程において、幼稚園・保育園・小学校で学び友達と触れ合う中で、生きる力を身につけていくが、社会の一員として暮らすにあたり、自転車を有効に安全に活用しつつ、自転車による交通事故の被害者にも加害者にもならず済むように、自転車の楽しく安全な乗り方を身につける機会を直接的に提供することがさらに求められると予想される。

キ. 自転車常設企画展示出展

我が国の「自転車のメッカ」である伊豆・日本サイクルスポーツセンターにおいて、多数の来場者に向けて、当センターを紹介すると共に、自転車の歴史と文化について実車を通して紹介することにより、自転車文化に対する関心がより高まることが予想される。

ク. 自転車利用環境研究レポート

当センターの活動に社会の注目が集まり、原稿執筆の依頼が求められたことは、競輪補助事業の支援を受けて行われている当センターの活動に対する評価がなされたことに加え、競輪補助事業自体に対する評価と理解の促進にもつながると予想される。

なお、レポートのうちの交通史学会学会誌、東京都及び茅ヶ崎市広報誌にも研究成果を公表予定であり、さらに広報効果が高まることが予想される。

ケ. 高齢者・障害者向け自転車普及啓発事業

展示試乗会を通じ、高齢の方、障がいのある方でも利用できる自転車の存在を多くの方に周知することで、自立した社会生活を送るための一助となることが期待できる。

また、体力維持やリハビリなどに効果があるなど、新たな自転車利用の可能性が期待できる。

コ. 健康増進のための自転車利用啓発事業

健康や体力に関する生理生化学的指標に有意義な改善をもたらすことが検証でき、サイクリングの普及の一助となることが期待できる。

サ. 自転車乗用に関する市民権宣言ポタリング

参加頂いた方々を中心に自転車の安全な利用についての広報がされることにより、ルール・マナーを理解した自転車利用者が増える事が期待される。

シ. バイコロジー地方組織開催

現在の社会状況に合致したバイコロジー運動のあり方、基本的な位置づけ、推進体制等を確認しつつ、中央団体・各地方組織ともその基本に添った具体的実践活動を展開してきたことから、バイコロジー運動のより深い浸透が図られるとともに、今後は国及び地方自治体における自転車乗用環境の整備促進や自転車の健全な普及が進むものと予想される。

ス. シンポジウム開催

「バイコロジーシンポジウム」を開催したことにより、各地域におけるバイコロジー運動の普及推進が進み、地方組織の一層の活性化、拡充が期待できる。

セ. セミナー開催

講師や参加者のネットワークの構築など、新たな情報発信手段として認知されているため、「自転車市民権」の確立されることが期待できる。

ソ. バイコロジー指導者養成セミナー

各地域におけるリーダーの養成により、「自転車市民権」や「バイコロジー運動」の普及推進が進み、地方組織の一層の活性化、拡充が期待できる。

タ. パネルディスカッション

自転車市民権宣言大討論会を開催したことにより、参加者の自転車利用に対する意識向上が図られ、安全安心に自転車が利用できる環境づくりが推進されることが期待できる。

3. 本事業により作成した印刷物

- ・平成23年度自転車月間「自転車の日」記念行事
『サイクルドリームフェスタ2011』来場者案内用チラシ 3,000部
- ・平成23年度自転車月間「自転車の日」記念行事
『サイクルドリームフェスタ2011』ポスター 100部
- ・平成23年度自転車月間「自転車の日」記念行事事業報告書 300部



チラシ (表)



チラシ (裏)



ポスター



[報告書 \(PDF\)](#)

- ・「高齢者・障害者向け自転車展示試乗会」ポスター 20部
- ・「高齢者・障害者向け自転車展示試乗会」チラシ 200部
- ・「平成23年度高齢者・障害者向け自転車普及啓発事業報告書」 200部



展示試乗会 (ポスター・チラシ表・チラシ裏)



[事業報告書 \(PDF\)](#)

- ・平成23年度「自転車による健康増進のための自然科学的研究」報告書 200部



- ・自転車安全利用促進キャンペーンパンフレット 121,500部



- ・自転車市民権宣言キャンペーンリーフレット(チラシ及び署名用紙) 各20,000部

- ・「バイコロジー・シンポジウム2011 in 紀の川」パンフレット 3,000部
- ・「バイコロジー・シンポジウム2011 in 紀の川」ポスター 1,000部
- ・「バイコロジー・シンポジウム2011 in 紀の川」報告書 200部



[パンフレット](#)、[ポスター](#)



[報告書](#)

- ・「平成23年度自転車セミナー」報告書 100部



- ・「自転車市民権宣言大討論会」チラシ 1,000部
- ・「自転車市民権宣言大討論会」報告書 100部



[大討論会 \(チラシ表\)](#)



[裏](#)



[事業報告書 \(PDF\)](#)

4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 財団法人 日本自転車普及協会(ニホンジテンシャフキュウキョウカイ)

住所： 107-0052

東京都港区赤坂 1-9-3

代表者： 会長 石黒 克巳(イシグロ カツミ)

担当部署： 事業部 (ジギョウブ)

担当者名： 部長 田中 栄作(タナカ エイサク)

電話番号： 03-3586-3278

F A X： 03-3586-9782

E-mail： jifukyo@jifu.jp

U R L： <http://www.bpaj.or.jp>

次ページ以降は、過去の補助事業の内容に関する資料となります。

??

20

22

2

25

()

2007

2



300m

1,451

20,600

30

10

400km

10

JKA

2008

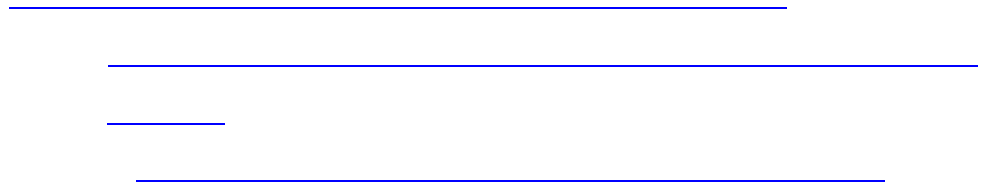
21

-

<http://www.bpaj.or.jp/>



1



(2)

23 10 1 () 2 () 2
1 1 2 3 4

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)

1,011 10 1 ()357 10 2 ()654



vol.6 2012 5 25

<http://cycle-info.bpaj.or.jp/japanese/kenkyouhoukokusho.html>

77

4

No.180

77

4

<http://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/kurashi/1204/wadai.html>

